

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.13 糖尿病と宣告 されました

主人公 御手洗透、ごく普通のサラリーマン。和尚の導きにより23歳の頃の自分と相對峙している。

3か月前、風邪をひいて病院を受診して初めて糖尿病と言われた。はじめは今一つピンとこなかった。何も特別な症状があるわけではなく、普通に風邪で受診しただけのことだ。急に糖尿病と言われても。いや、風邪の薬を欲しいだけなんですけど…。とはいえ、自分でも何となく危ないかなとは思っていました。だって、親父も、お袋も、叔父、叔母、みんな糖尿病で我が家は糖にまみれた家系なのだ。いわば、糖の怨念と言ってもいいくらいだ。癌なんて一人もいないが、糖尿病、高血圧は無縁の人がいないくらいの勢いなのだ。でも、まさか、自分が???。だって、太ってないじゃん。何かの間違いじゃないの。大きい声では言えないが、こそと別の病院を受診して

みた。あの先生は藪できつと見立てが間違っているに違いない。こんなに痩せているのだから。…結果はみごとに返り討ち。きっぱり糖尿病と宣告されました。

何で。アメリカ人みたいにおくぶくじゃないのに何で俺が…。そもそも症状は何もないじゃん。とは言え二人の先生から突き付けられた現実を受け入れるしかない。観念して仕方なくダオニールという糖尿病の薬を飲み始めた。まではいいが、何せジュースを手放せない。いつ低血糖がくるか分からない。低血糖の時はブドウ糖を飲むように言われているが、ジュースの方が速く血液の中に吸収されるような気がする。譲れない拘りとして缶ジュースに決めている。

低血糖の怖さは経験したものでなければ分からない。汗びっしょりになり手は震えイライラしてくる。何より深い暗闇に引きずり込まれていきそうな感覚は勘弁してほしい。低血糖が怖いからついつい食べてしまう。ここのところ体重は少しずつ増えているが、HbA1cはとりあえず7.5%まで下がった。先生も今までとは違い数値が下がったことで誉めてくれるので、まっ、いいか〜。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村 陽一